



東京金山会通信 No.70



◀こちらから東京金山会のページにアクセスできます

「かねやま市」近況報告

毎週第4土曜日に開催している「かねやま市」。記録的な猛暑が続いた2024年の東京にも、ようやく冬の寒さが訪れる季節となった11月開催から、山形名産「玉こんにやく」の店頭販売をはじめました。定番のマルジユウ醤油とスルメ出汁を使った、美味しく、とても温まる逸品で、たいへん好評をいただいております。

2年以上継続開催してきたことで、山形県・最上地域にゆかりのある方のみならず、近隣にお住まいの方にも「山形・金山」のワードとともに定着した感があり、たいへん多くの方々に来訪いただいております。

開始時間について、これまで毎回13時からの開始として運営しておりますが、特に近隣の方々は、売場準備中の午前中のうちから来訪いただく方がたいへん多く、オープン時間の13時時点で、すでに品薄ということもありました。あらためて来年からは、実態にあわせた開催時間帯の前倒しも検討したいと考えております。

集客の観点では、冬から初夏にかけて、ちょうど6月総会までの時期が、かねやま市

森の子ども図書

No.229



おすしときどきおに

作：くさなり

これは夢のようで夢じゃない！幻のネタ、君にも見えるかな？これは、家族と行った回転寿司屋で「僕」が体験した不思議な話。のれんを落れば、そこはぐるぐる回るお寿司屋さん。お寿司はどれも美味しそうで、何を食べようか迷ってしまう。えび、いくら、知らない魚、たまご、あじ！それから…お、鬼？

交流サロンぽすと

月～金 12時30分～17時まで
※祝・盆・正月は休み

図書室だより



病院に行くほどではない不調に医師がしたこと

小林弘幸／サンマーク出版

未病。未だに病気が発症しているわけではないが、健康から遠ざかっている状態。病院に行くほどではない不調は、意外厄介。病院に行ったらとても特効薬はなし、診断もつきづらい。未病が大病に変わってしまう前に、できることは沢山ある。人生百年時代。健康寿命をぐんと伸ばす為のヒントが満載。



さいわい住むと人のいう

菰野江名／ポプラ社

ある日、豪邸に住む高齢の姉妹が二人とも亡くなった。戦争孤児で親戚をたらいまわしにされてきた彼女たちは、いつか自分たちだけの居場所を手に入れて、二人で幸せになろうと誓った。しかし、ある選択を迫られて…。姉妹の人生が少しずつ紐解かれていく。二人の女性の壮大なスケールで描いた感動物語。

【図書コーナー】 金山町中央公民館内 9時～17時



／今月は7冊！／

なんのサンドイッチ？ (たなかひかる) ／さいわい住むと人のいう (菰野江名) ／世界のすべて (畑野智美)
小鳥とリムジン (小川糸) ／「しやすい」のつくり方 (下地寛也)
管理栄養士のひたすら野菜の作りおきBOOK (中井エリカ) ／病院に行くほどではない不調に医師がしたこと (小林弘幸)

※() 内作者名

移動式本屋「かぶりば」をやってみて



◀Instagramはこちら

金山町 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊 川村 佳恵

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の川村佳恵です。産業課 商工観光係に所属し、金山の「関係人口」創出・拡大に取り組んでいます。「関係人口」とは、簡単に言うと「金山のファン」のこと。金山に住んでいるかは関係なく、金山を好きでいてくれる人すべてが当てはまります。

関係人口を増やすため、私は観光案内所・交流拠点・本屋が一体となった場の設立を目指しています。その第一歩として、車に本を積んで町内外のイベントに出張販売する「移動式本屋」を始めました。この活動は、東京世田谷区の本屋「MAPLE HOUSE BOOKS」の協力を得て、町内外の方々と協議を重ねながら進めてきました。2024年5月から開始し、これまでに540名を超える方々にご来店いただきました。金山町内はもちろん、仙台市や山形市からも足を運んでくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

7月からは「草々」での毎週水曜日の定期出店も開始し、定期的に通つてくださる方もいらっしゃるようになりました。本当にありがとうございます。



▶小学生との本屋出店の様子

また、金山小学校6年生と協働し、子どもたちがおすすめの本を紹介するユニークな本屋も開催できました。

まだ小さな取り組みではありますが、地道に活動を続けていきたいと思っています。よろしく願っています！

活動は新聞やテレビなどのメディアにも取り上げていただき、ニッポン放送「薬師丸ひろ子のハートデリバリー」では、かぶりばや金山町を広く紹介する機会にも恵まれました。金山の魅力発信に少しでも貢献できていれば幸いです。



かねやま紅風会

金山杉俳句会報 第四九五回

何気なく戸を開けみれば冴えし月雪の夜の音無き音の息苦し

阿部 一代

極月の冴える稜線鎮もわり「病院」と唇に太字十二月

星川 キエ子

紅葉終え只管急ぎ散る木の葉時間見て北窓塞ぐ防備作

岸 昭子

寒風にかわたわの月白く冴ゆ初雪がみそわとなりし今朝の荒々

高橋 洋子

折鶴を孫に教わる置炬燵着膨ていよいよ妣似でありしかな

鵜沼 よし子

落てまだ失せぬ生き様寒椿枯早し老の光陰矢の如し

栗田 弥超

百年祭地産地消の祝い膳年新仏間を飾るシクラメン新年も健康願ひ花と旅

荒屋 阿部 勝子

五年誌に不安と期待の筆始め初買も厳し寸の中の品選ぶ恙なく年の瀬迎へる安堵かな

荒屋 関 喜美子

クリスマス孫の成長祝ひつつ日記買ふ五年綴りの苦笑ひ耐え偲ぶ厳しさも春遠からじ

菅越 庄司 けみ子

晴天や今朝の遠嶺は雪催「お歳暮」と書いて感謝の筆納はらからの安否気遣ふ雪の報

七日町 青柳 キエ子

初夢は妻と旅する花の宿伏す病二年越たる春病棟年明けの奇跡起こして妻の顔

上台 阿部 一步